

# 学校教育学科 カリキュラム・ツリー

DP1: こども理解と教育実践力      DP2: 各教科についての専門的知識・技能      DP3: 思考力・判断力・表現力      DP4: 協働的・創造的な課題解決力



## 説明

### ○ カリツリーの見かた

・科目名の色(科目の種類によって指定されている)

緑色:1年生科目、 青色:2年生・必修科目、 オレンジ色:選択必修科目、 赤色:3・4年生の演習・卒論・教職実践演習

・青い矢印や太線 科目の系統性や相互関係を示す。

・学年は下から上に進む。各学年で標準的に履修する科目を、時間軸上のおよその位置に配置してある(正確ではない)。

○ **卒業必要単位数:** 共通教養(12)+外国語(8)+共通体育(2)+共通専門(2)+A.教科および教科の指導法(32)+B.教育の基礎的理解に関する科目等(33)  
+C.大学独自の科目(4)+D.専攻・関連・選択(27)+卒論(4) = 124 単位

### ○ A.教科および教科の指導法

A-1. 「〇〇概論」および「〇〇実技演習」等は、指導法の前提科目ではなく、各教科に必要な基礎的な専門知識や技能を身に付け、その教科の学習活動の本来的な意味を考える基礎科目として位置づける。

全ての学生が履修すべき必修科目(算数概論や理科実験・観察、音楽実技演習、図画工作実技演習、外国語概論、体育実技演習)と、

学生が個人の興味・関心・苦手・得意に応じて選択する選択必修科目(日本語・日本文学概論、社会概論、理科概論、生活概論、家政学概論)に分けられる。

必修科目はクラス指定されており、その科目が指定する最低履修年次で履修する。

選択必修科目(クラス指定がない)は各科目の最低履修年次から3年次までの間に履修することを目安とする。

A-2. 「〇〇指導法」は、小学校の各教科の内容や指導法について学ぶ基盤的科目としての位置づけ。

つまり、A-1とA-2は、基礎→発展という一方向的な系統性ではなく、各教科の専門的事項と指導法を広く体系的に学ぶ科目群として位置づける。

### ○ B. 教育の基礎的理解に関する科目・道徳、総合的な学習の時間等の指導法および生徒指導、教育相談等に関する科目・教育実践に関する科目

1年次に教育に関する基礎理論・理念・歴史等を、2年次に方法論や技術、指導法など、3年次に教育実習、4年次に教職実践演習を履修し、教育の基礎理論から実践的能力までを4年間をかけて系統立てて学ぶ。

### ○ C. 大学が独自に設定する科目: 教育フィールド研究Ⅰ～Ⅲ、介護等体験実習

### ○ D. 専攻: 専門的力量を高めるための発展的・高度な内容を含む科目群

D-1. 系専門科目: 学生が所属する系の専門科目から指定された単位数(12、14、16単位)を修得し、専門的力量を高める。

D-2. 関連科目・選択科目: 所属する系により、11、13、15単位以上を、関連科目、自他系、自由科目から履修する。資格・副免科目を充てることもできる。

以上のA～Dの科目群を履修することにより、相互に往還・補間・補強しながら、教師としての基礎・基盤、応用力、専門的力量、実践的力量を高めていく。